

⑤ 教材作成

教材構造図から教材作成までの手順を以下のア～エに示す。

- ア 教材構造図の各事象、学習内容のカードに必要な画面作成計画を立案する。
- イ 各カードに対応する図表、写真、音声、映像資料を収集する。
- ウ 画面作成計画にそって、資料の割り付けを行う。
- エ 各カードに対応する画面をコンピュータに入力する。

次の写真は文字、映像、写真資料を統合したコンピュータ画面である。(写真-1)

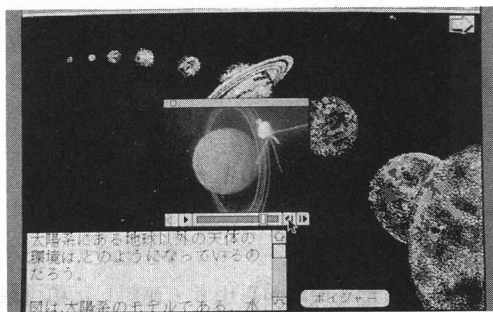
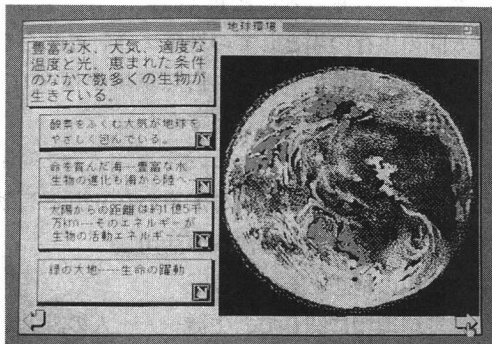


写真-1(文字・図表・映像の統合)

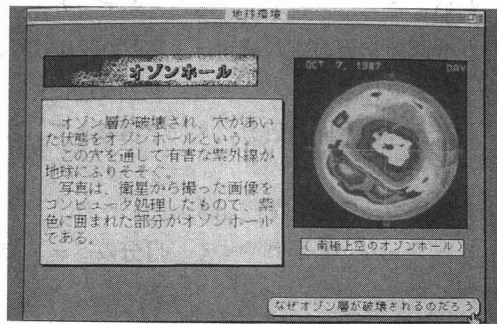
このコンピュータ画面をリンクさせ、教材を作成する。

図-7は教材構造図の太線で示した部分と対応させた教材の一部である。

【文字、写真、映像資料の提示】



【新聞資料の提示】



【シミュレーションによる説明】

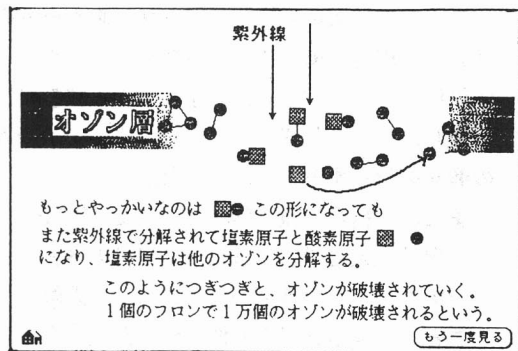


図-7(教材の一部)

生徒は、環境要因から学習を始め、オゾン層、酸性雨、地下資源やエネルギーなど、興味・関心に応じて総合的に思考することができるようにした。

また、画面の中のボタンをマウスを使って押すだけで、写真やVTR、図表など自由に検索し、学習を進めることができるようにした。

⑥ 開発教材の評価

- ア 学習後におけるアンケート結果から
- 生徒全員が興味を持って取り組むことができた。その主な理由は以下の通りである。
  - ・ グラフや図表が分かりやすく、理解できた。
  - ・ 写真がきれいでおもしろく学習できた。
  - ・ 映像が分かりやすかった。
  - ・ 難しい説明は何度も繰り返して学習することができたとし、シミュレーションの説明も分かりやすかった。
  - ・ 今までには集団で学習してきたのに対して、今